

問題 1

肝腫瘍で6年前に肝部分切除、4年前と1年前に TACE の治療歴がある 68 歳男性。経過観察目的に行った CT で肝臓に異常を指摘された。

既往歴：16 年前に C 型慢性肝炎に対して PEG-IFN、リバビリンでウイルス排除

生活歴：飲酒なし、喫煙 15 本/日を 48 年

現症：身長 173.8cm、体重 74.2kg、体温 36.5℃、脈拍数 59bpm、血圧 154/80mmHg、意識は清明、肝性脳症なし、貧血なし、黄疸なし。胸腹部に異常を認めない。腹水なし。

血液所見：白血球 4280/ μ l、赤血球 368×10^4 / μ l、Hb12.1g/dL、Ht 34.6%、血小板 23.3×10^4 / μ l、AST 24IU/L、ALT 15IU/L、LDH 223IU/L、 γ GTP 24IU/L、T-Bil 1.0mg/dl、ChE 273IU/L、Amy 85IU/L、TP 152g/dl、Alb 3.3g/dl、TC 145mg/dl、HDL 21mg/dl、LDL 93mg/dl、BUN 14 mg/dl、Cre 1.03 mg/dl、Na 139mEq/L、K 3.5 mEq/L、Cl 108 mEq/L、CRP 0.69 mg/dl、PT 92%、血糖 89 mg/dl、HbA1c 5.3%、AFP 7ng/mL、PIVKA II 245mAU/mL、NH3 52 μ g/dl

問 1 この患者の腹部血管造影時の肝動脈造影 CT 画像を示す。診断はどれか。



早期相



後期相

- a 転移性肝癌
- b 肝細胞癌
- c 肝血管腫
- d 肝嚢胞
- e 肝膿瘍

問2 この患者の Child-Pugh スコアとグレードの組み合わせで正しいのはどれか。

- a 5点、A
- b 6点、A
- c 8点、B
- d 10点、C
- e 13点、C

問3 肝細胞の治療においてカテーテル治療の適応となるのは次のうちどれか。

- a Child-Pugh A、S4、S6 に再発した腫瘍
- b Child-Pugh B、両葉に多発する腫瘍、T-Bil 4mg/dl
- c Child-Pugh C、左葉に 3cm 大の腫瘍が 3 個
- d Child-Pugh A、脈管へ広がっている腫瘍
- e Child-Pugh B、多発する腫瘍、門脈本幹完全閉塞

解答

問題1 b

問題2 b

問題3 a

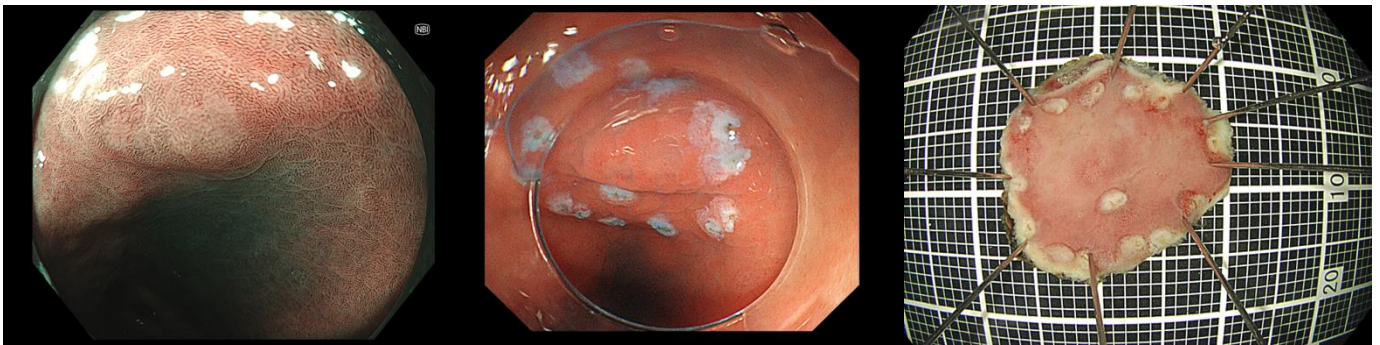
問題 2

76 歳女性。前医で上部消化管内視鏡を施行され、前庭部小弯にびらんを指摘された。生検で早期胃癌と診断された。大学での治療を希望し、当科受診した。

問 1 胃癌の発生リスクとなるのはどれか 2 つ選べ

- a 糖尿病
- b 喫煙
- c ピロリ菌感染
- d NSAIDs
- e 熱い飲食物

問 2 つぎの画像は行った胃癌の治療の画像である。この治療の合併症を二つ選べ。



- a 出血
- b 縫合不全
- c 黄疸
- d 消化管穿孔
- e 腎不全

解答

問題 1 b、c

問題 2 a、d